

2024 年度 評価結果報告書



調布市立第三小学校学童クラブ

(学童クラブ)

## 株式会社日本生活介護

### 評価推進機構への報告

1. 福祉サービス第三者評価結果報告書
2. 事業プロフィール
3. 利用者調査 . . . . . p 1～3
4. 組織マネジメント . . . . . p 5～13
5. サービス分析 . . . . . p 15～24
6. 事業者が特に力を入れている取り組み . . . . . p 25
7. 全体の評価講評 . . . . . p 26

## 評価推進機構への報告



1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)基本的な生活習慣を身につけ、自分で考え行動する 2)集団生活の中で社会性を身につける 3)育成を通して様々なことを感じ、考え、それを自己表現する 4)安全・安心な学童クラブ運営 5)施設間の連携 6)中期経営計画の取り組み推進</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりを大切に、安全・安心・快適に過ごすことができるよう、常に改善の意識を持ち、利用者から選ばれる施設運営を目指します。「利用者から選ばれる」東京かたばみ会</li> <li>・働く人一人ひとりが心に余裕をもち、働きやすい職場となるよう業務改善を進め、仲間を大切にする法人運営を目指します。「みんなが助け合う」東京かたばみ会</li> <li>・働く人一人ひとりの力を伸ばし、挑戦意欲を発揮できる職場となるよう、人材の育成・定着を図ります。「みんなが助け合う」東京かたばみ会</li> <li>・やがて土から芽を出し、きれいな花が咲くように、この5年間でしっかりと経営基盤の基礎を固め、持続可能な法人経営を目指します。「しっかり根を張る」東京かたばみ会</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の目線で考え実践できる職員になる。</li> <li>・確かな時代認識の上にならって新たな課題に道筋をつけ、責任を持って実行できる職員になる。</li> <li>・既存の習慣にとらわれることなく常に幅広い視点から柔軟に改革できる職員になる。</li> <li>・福祉の心を念頭にコスト意識をもって行動できる職員になる。</li> </ul>

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

学童クラブからアンケート用紙を配布し、記入後は返信用封筒に入れ、直接評価機関へ返送していただくか、学童クラブに設置した回収BOXに投函し、学童クラブからまとめて評価機関へ返送していただくこととした。

利用者総数

53

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
53	0	53
53	0	53
100.0	0.0	100.0

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

## 利用者調査全体のコメント

調査対象者53名全員から、回答を得ることができた。

満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか」などがあげられる。

総合的な満足度では、44名が「大変満足、満足」、7名が「どちらともいえない」、2名が「不満、大変不満」と回答している。また、「職員さんは優しくて頼りになります」「おやつを量を増やしてほしい」「イベントを増やしてほしい」などのほか、本やおもちゃに関する要望も寄せられている。

## 利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	47	3	0	3
47名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「将棋が楽しいです」「いろいろな友だちと遊んでいます」「みんなで遊びます」「絵を描くのが楽しいです」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	38	8	0	7
38名が「はい」、8名が「どちらともいえない」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	49	2	2	0
49名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「アイスクリームが好きです」「みんなと話しながらか食べます」「いろいろなおやつがあり、楽しいです」などのコメントがあがっている。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	25	15	1	12
25名が「はい」、15名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「親切に話してくれます」「アイデアを受け入れてくれます」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	43	3	1	6
43名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「厳しく言われました」「優しく教えてくれました」「いけないことを教えてください」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	20	6	21	6
20名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、21名が「いいえ」と回答している。 また、「本棚がきれいです」「きれいなので、みんな使いやすいです」「みんな片づけないです」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	42	5	0	6
42名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「言葉がきれいで優しいです」「いつも優しいです」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	51	0	0	2
51名が「はい」と回答している。 また、「手当てをしてくれました」「助けてくれます」「熱が出ると寝かせてくれます」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	46	4	1	2
46名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「仲直りをしてくれます」「助けてもらいました」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	38	8	0	7
38名が「はい」、8名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「いつも聞いてくれます」「一緒に遊んでくれます」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	28	9	1	15
28名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「たぶん秘密にしてくれます」「いつもありがとうございます」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	39	4	2	8
39名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「元気づけてくれます」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	29	5	3	16
29名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	法人の基本理念や基本方針が職員全員に十分に周知と理解がされている 法人の単年度事業計画では、児童部門の基本方針や育成目標、運営の方向性を詳細に示している。この計画は各施設に配布されるとともに、理念については事業所マニュアルにも掲載し、職員が常に意識できるよう工夫している。また、新任職員には採用時の研修で理念や基本方針を学ぶ機会を設け、さらに年に2回の全体会議を通じて、その理解を深め、意識を共有している。今回実施した職員自己評価では、正・非常勤職員ともに理念や方針、年度の目標について十分な理解がされていることが確認できた。	
	各会議体を設け、決定事項等の周知の流れを整理して、共通認識を進めている 法人では、「安全・安心な学童クラブ運営」を重点事項として掲げ、リスクマネジメントへの取り組みと、子どもの権利擁護に向けた方針を定めている。これを実現するため、法人主導のもと定期的に施設長会議を開催し、計画の進捗状況を確認するとともに、各施設が抱える課題の解決に向けた議論を行っている。また、各施設の職員会議で挙がった意見や提案は、施設長会議において検討され、現場の状況理解を深めながら、共通の対策を講じることで、サービスの標準化や安全対策の向上につなげている。	
	職員全体で集まる機会を設け、円滑な事業運営に向けて取り組んでいる 学童クラブ全体会は、全正規職員を対象とし、各施設の職員が顔を合わせる場として開催されている。この会では、年度の業務における重点項目を共有するとともに、共通認識を深め、職員間のコミュニケーションを促進することで、協力関係の構築を目指している。また、年度の中頃には2回目の全体会を実施し、遊びをテーマに据えた交流の場を設けている。この会では、職員同士がチームを組み、交流試合などを通じて親睦を深めるとともに、子どもへの遊びの指導力やコミュニケーション能力の向上を図っている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>子どもや保護者、地域のニーズを常に把握した方針の決定をしている</p> <p>定期的な利用者アンケートを実施し、その結果を分析することで、子どもや保護者のニーズを的確に把握している。子どもからはおやつやおもちゃのリクエストや、行事の遠足を楽しみにしていることなどを聞き、年間計画に盛り込んでいる。また、市の事業者連絡会や学童クラブあり方検討委員会への参加を通じて、国・都・市の児童健全育成の方向性を踏まえながら、法人としての方針を定めている。さらに、この法人の方針に基づき、放課後児童部門の中期経営計画を策定し、職員全体で各業務を検討しながら、計画の達成に向けた取り組みを進めている。</p> <p>中期計画から各事業所の事業計画の重点項目が設定されている</p> <p>法人の放課後児童部門が定めた中期経営計画では、「各施設における子どものケガの発生を最小限に抑え、安全安心な管理運営に努める」を重要なテーマとして掲げている。これを受け、単年度事業計画の学童クラブ全体の重点事項では「安全・安心な学童クラブ運営」「施設間の連携」「中期経営計画の取り組み推進」を定め、具体的な行動を示している。また、事業所の重点事項として「子どもの気持ちに共感し、多様な価値観を認め合う関わりをつくること」「積極的な情報発信と地域交流イベントを通じた保護者との信頼関係の構築」することとしている。</p> <p>法人の計画が職員に深く認知されており、各事業への理解が十分に進んでいる</p> <p>今回実施した職員自己評価の結果から、法人の中期経営計画や事業所の単年度計画に対する職員の理解度が深いことが明らかになった。これは、学童クラブ全体において、放課後児童部門の方針や事業所の重点事項を定期的に周知・確認していること、施設長の発信力の高いことが要因と考えられる。一方で、環境面での課題が、誰もが安心していられる場の実現に大きく影響している事を把握しており、収納場所が少ないことによる物品の整理や、小学1年生が多い事から、より明るい雰囲気や壁紙の張替などを検討している。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

日常的に子どもや保護者の意見や要望を聞き取り、苦情に至らない対応を心掛けている

経営層は、年2回の苦情解決第三者委員会議において、法人内の各事業に寄せられた苦情の内容、解決までの経緯、改善策を報告し、職員全体に周知を行っている。これまで放課後児童部門における苦情の実績はないが、他部門での事例を通じて、解決までの経緯を理解し、事前の防止策を講じることは、質の高いサービス提供において重要な取り組みと位置付けている。また、苦情の対象は子どもや保護者に限らず、地域からの意見も想定し、副校長や市の担当課と情報共有や解決に向けた取り組みを確認している。

定期的な権利擁護に向けた意識付けの取り組みが継続的に行われている

毎年12月の人権週間に合わせて、法人独自に作成した「子どもの人権擁護のためのセルフチェックシート」を各学童クラブ職員全員に実施し、その結果を統計として取りまとめている。このチェックシートは、日常業務や特定の場面での職員の行動を問う内容となっている。その結果は、各施設の会議や学童クラブ全体会において報告され、権利擁護意識の向上や啓発に活用されている。さらに、市の担当課からは、都や市で実施される権利擁護に関する研修の情報が提供されており、放課後児童部門からの指示や職員の希望に応じて、受講が進められている。

地域社会とのつながりを子どもと一緒に経験し、未来の地域社会の形成に寄与している

法人は、市内に7つの学童クラブを運営している強みを活かし、各地域の特性を深く理解しながら連携体制の強化に努めている。市の健全育成推進地区委員会や地区協議会などと連携し、地域の行事(お祭りや運動会等)への参加や協力を行っている。特に、法人単位での出店や活動を子どもたちと一緒に行うことを通じて、地域社会とのつながりを深め、将来的な地域のコミュニティ形成を目指している。また、コロナ禍によって地域社会のつながりが薄れたことを踏まえ、今後は地域との継続的な関わりをより一層重視して取り組んでいく方針を持っている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>市内の感染状況を十分に把握した上での、各施設の対策と注意喚起を行っている</p> <p>法人の事業計画において、「安全・安心な学童クラブ運営」を目標として掲げ、具体的な取り組みとして事故・ケガの防止、感染症予防対策、および避難訓練の実施を定めている。事故防止については、各学童クラブで発生したインシデントリポートを集約・分析し、活動場所の設定や見守り体制の見直しなど、改善策に反映させている。また、市内の感染状況を常に把握し、流行期には注意喚起を各施設に連絡し、事前に対策を行うことで感染症の予防に努めている。室内の安全対策として、2階部分の避難経路確保を重点事項として定めている</p> <p>施設の立地に応じた災害時の計画と体制が整備されている</p> <p>子どもの支援時間に応じた学校との災害時の連携体制を図るため、協定が結ばれている。年間で避難訓練を6回実施し、加えて業務アプリを活用したテストメール配信や災害伝言ダイヤルの使用訓練を毎月行っている。また、建物内の放課後児童教室との連携を強化し、さまざまな災害訓練を共同で実施している。さらに、事業継続計画(BCP)における職員の役割について、非常勤職員には特定の役割を設けず、法人のバックアップのもとで行動することが定められている。</p> <p>電子データの安全管理について、今後は更に取り組んでいきたいとしている</p> <p>市の指導のもと、個人情報の取り扱いや管理方法が徹底されており、定期的な実地検査を受けて運用状況の確認が行われている。法人の規定に基づき、電子データや記録媒体の管理も厳密に行われている。例えば、子どもの写真データはオフラインPCで取り扱い、配信用データに加工する手順が定められており、安全な管理体制が整備されている。また、アプリを通じた情報発信において、二次転用等のネットリテラシー対策に関して、市全体での取り組みが進められることを期待している。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;"><b>評点(〇〇〇〇)</b></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に  
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

適切な職員配置における支援体制を確立し、各施設の特色を生かした活動をしている

市内の学童クラブ利用のニーズ増加を受け、法人では正規職員の採用を積極的に行っており、これは学童クラブや児童館、保育園などの児童部門の拡充に向けて、次世代の事業の担い手を育成することを目的としている。人員配置は支援単位に応じて適切に行われ、その活動内容に関しては施設長と職員が協力し、方針を定めている。この方針を踏まえた事業所の特色として、小学1年生が児童数の多くを占めることから、楽しく安全に過ごせるよう職員の丁寧な対応を心掛け、2年生以降も学童クラブに楽しく通えることを目指している。

法人の方針や職員の意向を踏まえた研修受講を進めている

法人では、正規職員の勤続年数に応じた段階的な研修受講を計画的に進めており、子どもの育成支援に必要な研修については、正規・非常勤を問わず、職員会議などで共に実施し、知識を深めている。これまでの所内研修では、事故防止や緊急時対応を重視し、積極的に実施してきた経緯がある。また、現場からは、障害や要支援児童へのコミュニケーションや具体的な支援事例を通して学びを深めたいとの意見もあがっており、今後の研修に生かす予定である。

職員間の交流を通して、組織力の強化やサービスの標準化を図っている

年2回行われる学童クラブ全体会では、1回目に事業の目標・方針の確認や研修、重点事項の確認を行い、職員間での認識を統一している。2回目は、各施設の職員間のコミュニケーションの活性化や、育成支援の技術を共有し、楽しみながら行える場として開催している。この取り組みを通して、法人の運営する学童クラブでの業務やサービスの標準化を図り、異動等があった際にも迅速に組織形成が行える体制を整えている。また、夏季の1日育成の場合、職員の休憩場所が無い事から、働き方の標準化に向けて対策をしていきたいとしている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

法人の中期計画にある4つの柱の実現にむけた事業評価を適正に行うこと。

【取り組み】

外部コンサルタントを活用しながら、四半期ごとの見直しの際に進捗管理を行った。

【取り組みの結果】

A・B・Cの三段階評価により、進捗状況を明確にし、適正な事業評価と課題の抽出を行うことが出来た。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

学童クラブの委託を受けた法人は、市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。その柱は、地域に根ざしたサービスの質の向上、人材の確保・育成・定着、業務の効率化・運営の標準化、新拠点の業務委託を円滑に行うという4つの目標で構成されている。各項目については、外部コンサルタントの助言を受けて、具体策を設定し、学童クラブが設置されている各地域に応じた単年度計画を作成している。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、必要に応じて修正を加えている。各目標に対しては、年次評価を3段階で定め、評価基準はA(計画以上に進捗が確認できた)、B(概ね計画通り)、C(進捗が遅れが見られ、改善が必要)となっており、次年度に向けた課題抽出を行っている。これらのプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、実行に移されている。

**評価項目2**

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

**前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)**

**【課題・目標】**

安全・安心な学童クラブを実現するための事故防止対策を徹底する

**【取り組み】**

各学童クラブのヒヤリハット・事故報告の内容を分析し、各種マニュアルの改訂とその内容の周知を行う

**【取り組みの結果】**

児童引き渡しの手順の整理がされたことによる適正な子どもの引き渡しが改善された事、受診につながる事故等の各施設の目標値を設定し、計7施設中6施設が目標を達成した。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

**評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評**

事業計画において、各施設の重点事項を明確にし、法人の目標である「安全・安心な学童クラブ」の実現に向けて取り組んでいる。特に、受診につながる事故防止と、児童引き渡し時の間違いをなくすことを目標に掲げている。事故防止に関しては、事故やヒヤリハット報告の内容を精査・分析し、その対策を全施設に周知した。また、適正な児童の引き渡しに関しては、使用アプリの使い方や手順を整理し、マニュアルの改訂と職員への周知を行った。この取り組みによって、事故報告や受診に繋がる事故発生件数は減少した。この取り組みは次年度も継続し、発生要因やその対応をさらに精査し、より安全な環境の提供と職員の育成支援に反映させていくこととしている。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリ1の講評		
<p>事業所の情報及び入会申請手続き方法は、主に市のホームページで入手できる</p> <p>市および法人のホームページには常に事業所の情報を掲載している。学童クラブ入会案内は市のホームページからダウンロードでき、入会申請手続き内容や入会要件、学童クラブの生活、育成料、児童館や放課後子供教室との違いなどをわかりやすく記載している。次年度の入会申請情報は市のホームページや市報に掲載される。また、在籍児には施設から入会案内を配付している。申請書類は市のホームページからダウンロードでき、在籍児及びその兄弟は各施設で、また、児童青少年課やインターネット申請、郵送でも申請可能である。</p> <p>学童クラブを理解してもらうための情報を市や地域の子ども関連団体に提供している</p> <p>毎月、学童クラブ育成状況報告書および学童クラブのおたよりを市に提出し、活動状況や支援状況を報告している。また、入会前の説明会を数回実施し、保護者に学童クラブの運営形態や内容を理解してもらう機会を提供している。また、年2回の地域の児童館で開かれる児童館運営会議に出席し、子ども関連の近隣施設や地域団体と情報交換を行い、学童クラブの活動内容や子どもの様子を紹介している。会議では、地域の保育園児が散歩で学童クラブに立ち寄り、園児に学童クラブを知ってもらう機会を提案しており、今後の実現が期待される。</p> <p>希望する保護者や子どもに向け施設見学を行い、施設内容や生活の流れなどを伝えている</p> <p>登室時の安全を考慮し、学童クラブの学校内施設に入会を希望するため、施設見学を希望するケースが多く、随時受け入れている。見学時には、建物内の様子や学童クラブでの生活スケジュールを説明し、どのような遊びや行事を行っているか、放課後子供教室との違いや連携方法、お迎えや集団帰宅方法などを個別の状況に合わせて伝えている。必要に応じて個別面談も行っている。また、保護者と一緒に訪れた子どもには室内を案内し、遊べる遊具を紹介することで、学童クラブの楽しさや雰囲気を感じ、期待感を持てるようにしている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入会説明会では、保護者と子どもの不安軽減に配慮し丁寧な説明を行っている 内容、レイアウトがわかりやすく、丁寧に作られている入会のしおりを用いて、入会説明会を実施している。育成時間、生活の流れ、出欠席や早退の連絡方法、持ち物、おやつ、災害発生時の対応などについて説明し、育成料や間食費の納付手続きについても伝えている。特に第一子を持つ保護者が多いため、小学校入学という大きな環境変化に加えて学童クラブへの入会が負担にならないよう、きめ細やかな説明と丁寧な対応を心掛けている。学童クラブのことが不十分でも、学校の準備に集中してほしいと伝え、保護者の気持ちに寄り添っている。</p> <p>入会前の個別の生活状況を把握し子どもが安心できるような生活支援を行っている 提出されている「児童状況書」を基に、子どもの発達状況や保護者の状況を個別に把握し、援助に活かしている。保育園や幼稚園での生活とのギャップを緩和するため、入会前に各施設への聞き取りを実施し、対応の参考にしていく。登室初日には学童クラブツアーを実施し、場所や生活の流れ、ルールなどの説明を行っている。また、上級生に身支度やおやつ補助の役割を持たせ、職員以外にも頼れる存在がいることを伝えている。春休み期間中には集団活動を多く取り入れ、友達や遊びのレパートリーを増やし、安心して過ごせるよう支援している。</p> <p>サービス終了後の様々な過ごし方を日々の生活の中で子どもや保護者に伝えている 今年度の状況から、在籍児が来年度も継続して入会できる可能性が低いため、子どもたちが自立して行動できるよう、入会説明会で身の回りのことや時間管理について伝えている。結果として、保護者のお迎えではなく、集団で帰宅する子どもが多くなっている。近隣学童クラブへの移動を見越して、夏休みや土曜日に行き来し、日常的に校庭で一緒に遊ぶ時間も持っている。また、放課後子供教室や近隣学童クラブとの交流事業を年4回実施し、児童館事業に参加を促すなど、様々な放課後の過ごし方を子どもたちや保護者が知る機会を提供している。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>育成目標に基づいた育成や行事予定を立て子どもの状況変化に応じて見直しをしている</p> <p>法人の基本方針、育成目標に基づいて育成支援の目標を立て、それに沿って育成計画を作成している。職員は日々の情報共有や学期に一回程度のミーティングで計画の見直しを行い、子どもの状況の変化に対応している。子ども向けの月間目標を設定し、理解しやすい形で伝えている。入会説明会や保護者会で年間目標や行事予定を説明し、欠席した保護者には後日資料を配布し、様子をおたよりに掲載している。また、配慮が必要な児童には個別の育成目標を設定し、必要に応じて保護者面談を行うなど、きめ細やかな支援を心掛けている。</p> <p>毎日の育成状況を記録し、子どもたちの個別の状況変化や個人面談内容を記録している</p> <p>育成日誌には、毎日の育成活動の内容や出席状況を記録し、月末には振り返りを育成状況報告書に記載し市に報告している。配慮が必要な児童については、障害児日誌や要配慮児日誌にその日の詳細な様子や支援内容を記録し、月末に振り返りを記載し市に報告している。毎日の朝礼では、前日の育成を振り返り、子どもたちの様子やトラブル、保護者からの連絡事項などを情報共有し、朝礼簿に記録している。個人面談を実施した際には、面談記録表に記入し、お迎え時に相談を受けた際も記録し、入会からの情報とともにファイルしている。</p> <p>職員研修の内容、子どもや保護者の情報を常に共有できる仕組みを整えている</p> <p>年度初めには、ミーティングで独自の重点目標や子どもたちの月間目標を確認し、その内容に沿って行事を計画している。法人の育成目標を職員が意識できるよう掲示し、目標に沿った支援を話し合い実践している。また、職員が市や法人の研修に参加した内容をミーティングで共有し、育成活動に反映させ施設全体の専門性を高めている。朝礼では、子どものトラブル、ヒヤリハットの事例、保護者からの意見等があったときなどは特に事実経過を確認し、今後の対応を話し合い、全職員が共通の認識を持って育成にあたるよう情報共有を徹底している。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p><b>子どもに関する個人情報、写真掲載などプライバシーの保護を徹底し支援している</b></p> <p>子どもに関する個人情報の他機関など外部とのやりとりについては、入会説明会の際に伝え、法人の「個人情報保護に関するマニュアル」に基づく同意書で確認してもらっている。おたよりや法人の冊子などへの写真掲載についても、子どもの顔や姿が分からないように加工する必要があるかなど、掲載範囲を明確にして承諾を得ている。また、子どもたちは、職員が放課後子供教室参加や学童クラブ出席の子どもたちを把握できるよう、登室すると名札を付けて過ごしているが、学校外に出る活動時には外すことにしている。</p> <p><b>職員は子どもの権利を意識し、プライバシーに配慮した支援を行っている</b></p> <p>子どもたちには、日常的にプライベートゾーンのことや、必要以上に友だちの体を触らないなどの注意点を周知している。外で遊んで汗をかいたり水遊びをしたりした後の着替えの際には、室内をパーテーションで区切り、一人ひとりの羞恥心に配慮している。また、職員は子どもたちの家庭状況に関する書類の内容を共有し、プライベートに関わる質問をしないよう徹底している。毎年人権週間には、職員全員が「人権擁護のためのセルフチェック」を行い、自分の支援の質を振り返り、適切な支援を可能とするための意識向上に努めている。</p> <p><b>子どもの話を丁寧に聞き、子どもや保護者の意志を尊重した対応を行っている</b></p> <p>職員は常に一人ひとりの子どもたちの話に耳を傾け、主観で判断しないように注意している。在籍児は1年生が多く、知らないことや分からないこと、できないことが多いため、集団生活のルールやマナーを丁寧に伝え、全員で一緒に学ぶことから始めている。また、家庭の生活習慣や保護者の考えに配慮し、おやつや時間と量を考慮し、宿題に取り組む時間と場所を確保するなどの援助を行っている。さらに、子ども同士のトラブルが発生した場合は、丁寧に話を聞き、職員間での情報共有と状況に応じた保護者との連携を徹底し、いじめの予防に努めている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>各種マニュアル、サービスの基本事項や手順の基準を明確にして支援にあたっている</p> <p>市の学童クラブ共通の職員マニュアルやアレルギー対応マニュアルのほかに、法人独自の緊急時(災害・不審者など)対応マニュアル、個人情報保護マニュアル、児童虐待防止マニュアルなどがあり、全職員がすぐに確認できる場所に保管されている。また、その日の子ども受け入れや出席確認、おやつ、配慮の必要な児童の見守り、室内外の見守りなどの職員配置、日常運営の流れは朝礼簿に記載されており、午後出勤の職員も確認できるようになっている。特におやつの手順は、アレルギー事故防止のため保管庫の横壁に掲示されている。</p> <p>マニュアルやサービスの手順は定期的に確認、見直しをし、改善に努めている</p> <p>法人で決められたマニュアルは、法人施設長会議等で定期的に点検・見直しを行っている。特にアレルギーや事故対応に関しては、施設内で研修を行い施設の状況に合わせた手順の確認と更新をしている。月末には職員会議で毎月の目標を振り返り、育成状況を確認して報告書にまとめ、年度末には1年間の育成状況を振り返り、次年度の育成目標や事業計画を策定している。また、行事実施後には、目的や計画、内容、タイムテーブル、職員の動きなどを振り返る機会を設け、定期的実施しているものは次回に活かせるよう見直し更新を行っている。</p> <p>育成内容に関する保護者や子どもたちの意見や提案を支援に活かしている</p> <p>市が実施する学童クラブ利用者アンケート調査をもとに、育成を振り返り、取り入れられる意見を反映させている。好意的な意見をいただくことが職員の励みとなっている。行事後には子どもたちから感想を聞き、楽しく積極的に参加できるよう、次回に活かしている。また、保護者の意見も聞き、好評の親子交流会を年2回に増やし、交流を深める効果を上げている。子どもたちが生活の中で感じた意見や提案はわかりやすくまとめてホワイトボードに記載し、順番や室内のものを使うルール、子ども同士の関わり方のルールとして意識できるようにしている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況														
		29 / 29														
1	<p>評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当														
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当														
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当														
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当														
評価項目1の講評																
<p>入会時には子ども一人ひとりの状況を確認し順調に集団生活に入れるよう援助している</p> <p>入会時に保育園や関係機関から児童の状況を聞き取り、児童状況書を基に新しい環境にスムーズに馴染めるよう受け入れ準備を行っている。個別面談が必要な家庭とは面談を通じて、必要な情報を得ており個人面談記録シートに記載され支援計画が立てられる。小学校とは入学式前の春休みの児童の様子や生活環境について情報交換を行い共通理解が持てるようにしている。子ども同士の良好な関係性を築けるよう一人ひとりを尊重した援助が行われている。特定の児童だけではなく、誰もが必要な時に助けを求められる環境作りを心がけている。</p> <p>年上の児童が年下の児童に集団でのルールを教えお互いの関係性が豊かになっている</p> <p>おやつの時間や誕生会に班活動を取り入れ異学年児童の交流の場となっている。班活動ではあえて班長は置いていないが2年生がその役割を担い、テーブル拭きやあいさつなど行っている。4月当初は2年生が1年生にロッカーや靴箱の場所を教えたり、玩具の遊び方やルールを教えるなど下級生を助け、手本となるような支援が行われている。帰りの会や読み聞かせの時に2年生が率先して静かにするなど、1年生が自然に集団生活のルールを覚え協力することを学び、関係性が豊かになっている。子どもたちがお互いを思いやり尊重することが大切にされている。</p> <p>いさかいが起きた時は言葉でお互いの気持ちを伝えあい解決するよう導いている</p> <p>子ども同士のトラブルが発生した際にはそれぞれの子どもの意見に耳を傾け、お互いの気持ちを伝え合う場を設けることで感情の高ぶりを和らげる援助を行っている。日頃から子どもたちには暴力はいけないうことや、言葉で気持ちを伝える大切さを教えている。トラブルの時には経緯を丁寧に聞き取り解決へ導き、クールダウンが必要な場合には事務室やパーテーションを活用し一人になれる空間を作り落ち着かせるなど工夫されている。保護者には電話や連絡用アプリ、迎えの時に状況を報告し、職員間は記録ノートや朝礼簿などで状況が把握されている。</p>																
2	<p>評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当			
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当														
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当														
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当														
評価項目2の講評																
<p>生活や遊びの場が明確に分けられ発達に合わせた遊びが展開できるよう工夫されている</p> <p>活動の目的に合わせて2部屋を有効に使う工夫がされている。育成室はテーブルが常設され、学習やおやつなどで使われている。プレイルームはフロアマット敷きで、発達に合わせみんなで遊べる玩具が揃えられている。玩具が転がらないよう仕切りを置くなど遊び方の工夫もされている。玩具は置き場所が決められており、子どもたちに分かりやすく整理されている。図書も年齢に合わせて選定され、図書館からの団体貸し出しも利用している。環境の工夫により、子ども同士が関わり合う中で互いに影響し合い、集団全体の生活が豊かになるよう努められている。</p> <p>集団での過ごし方を分かりやすく説明し子どもたちが主体的に過ごせるよう努めている</p> <p>職員は子どもたちが主体的に集団活動に関わり、学童クラブでの生活が楽しめるよう支援している。他の人のことも考えて行動できるよう、分かりやすく説明し伝えている。ホワイトボードに今日のスケジュールだけでなく、みんなが気持ちよく過ごすための守るべきことを書き、視覚的に理解しやすい工夫をしている。安全面の注意喚起や片づけの掲示もイラストを使い分かりやすい表示となっている。各班に日替わりで当番を任せ、おやつ準備や司会進行を担当させることで、子どもたちが役割を持って活動できるようにしている。</p> <p>集団生活に必要な生活習慣や規則などは丁寧に説明し理解が得られるようにしている</p> <p>日々の予定は児童に分かりやすく掲示され、児童の頑張りは他の児童にも共有されることで、友達の良いところを真似て成長できる工夫がされている。多くの児童が大きな集団で生活することが初めてであるため、ルールやマナーについては一から丁寧に説明されている。職員は時間を守る大切さも分かりやすく伝えて、あいさつや手洗いなどの生活習慣も常に伝え大切さを知らせている。子どもたち同士の関わりや活動状況を職員全体で共有し、集団生活の中で自分も友達も居心地の良い環境を整えるためにできることを一緒に考える機会が設けられている。</p>																

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもたちが行事に関心を持ち内容が理解できるよう支援している</p> <p>子どもたちが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるような工夫が行われている。行事の目的や内容を事前に伝え、当日までの期待感を高める配慮がされており、児童館主催の催しのポスターを張り出すことで積極的な参加を促している。特に1年生が多いため、内容が理解できるよう丁寧に説明を行っている。児童館まつりでは学童クラブとして一店舗を構えるため事前に子どもたちと看板作りや装飾、景品作りを行い、当日はお客さんとして参加者としてまつりを盛り上げる活動に取り組んだ。子どもたちが主体的に活動に関わり楽しむことを支援している。</p> <p>夏休み等は子どもたちから出される意見を尊重し行事に取り入れ楽しい計画が立てられた</p> <p>行事の企画は職員が主導で行われることが多いが、児童の意見を調査し取り組んだ行事もある。夏休みの長い一日をどのように過ごしたかを児童に尋ね、前例にとらわれず、新しいアイデアを積極的に取り入れ、「きもだめし」「マンカラ」「絵の具遊び」等イベントが実施された。学童クラブの行事が初めての経験となる1年生が多いが、他学年の児童と遊び、集団遊びの楽しさを伝えるよう工夫されている。放課後子供教室との交流も取り組まれている。子どもたちにとり楽しかった経験を次につなげる支援がされている。</p> <p>学童クラブの育成の様子を保護者に伝え理解と協力が得られるように工夫している</p> <p>年間行事が豊富に実施され、子どもたちは意欲的に行事に取り組むことができるよう働きかけている。行事の準備や実施にあたっては、保護者の理解と協力を得るための工夫がなされており、年間行事予定を年度初めに配布し、毎月のおたよりで周知している。おたよりには今月の目標とともに行事予定が見やすく記載されている。保護者も子どもたちの活動に対する期待感を持ち、一緒に行事を楽しむことができるよう工夫がみられる。行事終了後は子どもたちの様子が写真を交えて詳しく掲載され、家庭での会話が増えるきっかけ作りが行われている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」都型学童クラブ実施要綱】に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちに学童クラブに通う必要性を伝え、楽しく通い続けられるよう援助している</p> <p>入学当初、小学校が集団下校する間は職員が昇降口まで迎えに行き、登室する人数確認を行い学童クラブまで同行する。学童に通うべき日は必ず登室するよう指導している。子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう、学童クラブの必要性を伝え、通うことが習慣となるようにしている。学童クラブの玄関は気持ちよく入室できるよう整え、児童が楽しい時間を過ごせるように友達づくりの支援や様々な遊びの提案を行っている。それぞれが自分なりの放課後の過ごし方を見つけられるよう子どもたちが興味を持ちそうな玩具を揃え、環境を整えている。</p> <p>「静かタイム」で落ち着く時間を作りゆとりを持って過ごせる環境設定がされている</p> <p>一日の流れはホワイトボードに時間ごとのスケジュールが記載されており、各自が確認して行動できるよう支援している。登室直後の「静かタイム」では、学校からの切り替えとして静かに過ごし落ち着く時間が設けられている。この時間に宿題に取り組む子どももいる。児童用机や椅子は体に合わせたものが選ばれ、特に椅子は背もたれがあり姿勢が保たれている。夏休みは暑さで消耗した体力を回復させるため30分程度の休憩時間を設けている。寝ることが苦手な児童も静かな空間で静かに過ごしている。児童がゆとりを持って活動できるよう工夫されている。</p> <p>放課後子供教室と連携した事業を行い子どもたちの交流の場となっている</p> <p>放課後子供教室のおたよりを掲示してイベントの内容を周知するなど、積極的に情報を提供している。年に4回の交流事業では「謎解き」「夏祭り」「ドッチビー」など共同で企画し実施した。また外遊びを合同で見守っている。交流イベントでは子どもたちが参加して楽しかったことを友達に伝えることで次回の参加者が増え、多くの子が参加する機会が作られている。近隣の学童クラブも参加するため交友関係の広がりもある。一日育成の日に放課後子ども教室に遊びに行き遊ぶ中で学童クラブの利用終了後などの居場所を知るきっかけとなっている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもたち一人ひとりの状況を学校と学童クラブで情報共有し、適切な援助をしている</p> <p>生活の連続性を保障するため、学校との情報交換や共有が行われている。年度初めには、学校の年間行事予定表や授業時間割等の情報を得て学童クラブの生活を組み立てている。1年生は担任教諭との顔合わせの場を設け、入学式前の子どもの様子を伝えている。月に1度の学校とのミーティングでは、副校長が窓口となり施設長と職員が出席して子ども一人ひとりの情報共有をしている。詳細に記録ノートに記録され他の職員も共有している。学校生活で不安や養育環境に課題を抱える子どもへの支援についても、連携を取っている。</p> <p>課題を抱えている児童の対応は小学校と密接に連携を取り支援している</p> <p>担任教諭とその都度連絡を取り合い、支援方法を検討することで、適切な対応が行われている。特に課題を抱えている家庭や子どもは注意深く見守り、子育てに課題を抱える家庭に対しては施設長が家庭支援センターと繋がることをサポートしたこともあり、関係機関と共に対応を考えている。その状況は学校と共有することで、支援方法を検討している。学童クラブとしては、子どもの気持ちに配慮した対応を心掛け生活を支援している。記録ノートに丁寧に記録され職員間で共有し対応策など話し合い、子どもが安心して過ごせる環境を提供する努力が行われている。</p> <p>配慮が必要な児童の援助は子ども家庭支援センターなどの関係機関と連携している</p> <p>配慮が必要な子どもや家庭の援助にあたっては、関係機関と緊密に連携している。必要に応じて子ども家庭支援センターとも情報交換を行っている。支援には保護者との連携が不可欠であるが、連絡が取りづらい場合や理解を示さない保護者もいるため、子どもの様子などの伝え方の工夫が求められる。市の臨床心理士による巡回相談を利用し、育成上での言葉のかけ方や対応のやり方などのアドバイスを受けた。すぐに問題が解決しない場合もあるが根気よく検討している。記録ノートや朝礼簿を活用し、日々の活動や支援の状況を記録し職員間で共有している。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りで配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつは子どもたちにとって楽しい時間となるよう変化を持たせ工夫している</p> <p>おやつは味のバランスを考え、日々違うものになるよう工夫され、水分補給も行われている。週に1回程度バイキング形式を取り入れ、好きなものを選ぶようにしたり、誕生会にはいつもと違う特別なおやつを提供するなどしている。おやつは楽しい時間であると同時に食事のマナーを覚える場でもあり、あいさつや班活動を通して社会性が育てられる。会話しながらおやつを食べることで友達との交流の場もなっている。おやつは毎日メニュー記録表に記録されている。スナックやチョコレートを提供が多くなっているのでパンや果物等の提供を期待したい。</p> <p>おやつや提供時間は子どもたちの生活リズムが崩れないよう配慮されている</p> <p>子どもの登室時間を考慮し、おやつや提供時間や内容、量等工夫されている。おやつは補食の役割もあるが1食200キロカロリーを目安にメニューを考え、夕食に響かないようにしている。しかし子どもによってはその日より食欲も違うためおかわりを用意することで、個々が満足できるよう配慮している。一方で、量が多すぎて食べられない場合も量を減らすなど考慮している。行事がある日でも生活のリズムが崩れないように15時から16時の間をおやつや提供時間として提供している。健康面と満足感を得られるよう工夫されている。</p> <p>食物アレルギーがある児童にはその子の状況に応じて安全におやつを提供している</p> <p>アレルギー物質の確認をダブルチェックすることで、欠かさず安全性を確保している。学校給食で提供しない食材は、学童クラブでも提供しない方針を徹底し、必要に応じて家庭から持ち込みをお願いしている。持ち込みのおやつもメニュー記録表に記載し保存され、職員間で共有されている。アレルギーがある子や配慮が必要な子は職員が目が届きやすいテーブルに座り、様子を把握できるようにしている。子どもたちが安心しておやつを楽しむことができる環境が整えられ、記録ノートやアレルギーマニュアルを活用し、安全を第一に考えた支援が実施されている。</p>		

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>病気の予防について帰りの会などで子どもたちに理解できるよう伝えている</p> <p>子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがの予防・防止ができるよう援助している。登室時や外遊び後、食事前などに手洗いを促す声掛けを実施し、手の洗い方は手洗い場に掲示している。感染症の罹患者が出ると児童へ情報提供を行い、感染予防策の指導を徹底している。マスクを使用することは自分を守るため有効であることも伝えている。薬を持参できるが自分で管理することになっている。発熱など具合の悪い子はパーテーションを立てて他の児童と隔て休ませ、保護者に容体を伝えている。記録ノートに記録して職員が共有している。</p> <p>怪我につながらないようにルールを決め安全に過ごす工夫をしている</p> <p>怪我のリスクが高い活動においては、その理由を児童に説明し、予防の重要性を理解させる取り組みが行われている。体のイラストが描かれた用紙があり、痛い場所など指し示し、視覚的に分かりやすい工夫が凝らされている。子どもが入れない場所は床に赤いテープを貼り注意を促し、階段など危険な場所には分かりやすい掲示を設置するなど子どもたちが安全に過ごせる環境を整えている。帰り道は決められた道順を皆でまどまって帰ることになっている。交通ルールを守り安全に帰宅するため帰りの会などで丁寧に指導し、職員によるパトロールも行われている。</p> <p>健康や安全面についてしおりやおたよりで保護者に伝え、協力を得られるようにしている</p> <p>学童クラブの入会の時に配布されるしおりに、学童クラブで安全に過ごすため「アレルギー対応のため弁当に初め食べるものを入れない」「学校給食で提供しない食材は入れない」などのお願いや「薬の服用に対し自分で管理できるものに限り持参できる」等記載がされている。また事故や医療機関に受診した時の傷害保険についての記載もあり、保護者に理解を求めている。児童の発熱や嘔吐がある時なども家庭に連絡して迎えを依頼することが記載されている。健康面や安全面において家庭と学童クラブが連携し協力して子どもを見守っている。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労時間に対応した個別の状況に対し、柔軟で丁寧な支援を行っている</p> <p>アプリを活用して出欠席や帰宅方法について保護者と連絡を取り合っている。17時以降は保護者による迎えが必須であり、個々の就労時間に応じて急な時間の変更にも柔軟に対応している。現在、17時以降に育成を希望する子どもは全体の約2割と少なく、18時以降の延長育成を利用する子どもはいない。17時以降は静かに過ごす時間を設け、宿題を行える環境を整えている。随時お迎えの保護者が訪れるため、残った子どもが少人数となって退屈することがないように配慮し、少人数でも子どもが主体的に取り組める遊びを提供している。</p> <p>保護者会や親子交流会を通じ、保護者同士、職員との交流ができる機会を設けている</p> <p>保護者会や親子交流会を実施し、日頃迎えに来ていない保護者にも年に数回は学童クラブへ足を運んでもらい、他の保護者と交流する場を設けている。年2回の親子交流会への参加を通じて、保護者は子どもの学童クラブでの様子や友人関係を理解する機会となっている。職員も子どもたちの異なる面を見ることができ、保護者と信頼を深める機会となり、それが支援にも活かされている。また、年2回の保護者会では、職員から育成目標や子どもの様子などを伝え、保護者同士が懇談する場も設け、子どもを中心に意見交換や情報共有を行うことができる。</p> <p>常に保護者と同じ目線で子どもたちを支援できるよう情報共有を行っている</p> <p>希望者に個人面談を実施しており、事前に保護者が聞きたい内容を尋ね話し易い工夫をしている。集団の中での子どもたちの様子を伝え、家庭での様子も尋ね、常に保護者と職員が同じ目線で成長を支援できるよう努めている。全体の8割という高い参加率から、保護者の関心や信頼の高さがうかがえる。日常的にもアプリやお迎え時の会話などで、学童クラブと家庭での様子を保護者と共有している。また、おたよりには活動の写真や育成の様子が伝わる読みやすい文章が掲載されており、日常の子どもの様子が想像できる内容になっている。</p>		

9	<p>評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
評価項目9の講評	
<p>子どもたちが楽しく多様な体験ができるよう地域資源を活かした事業を企画している</p> <p>放課後子供教室や近隣の同法人学童クラブとの年4回の交流事業を実施し、日常的にも校庭などで交流している。近隣児童館でドッチビーの交流を企画し、市主催の学童クラブ交流ドッチビー大会やサッカー大会への参加も推奨しており、他の小学校や同じ保育園だった子どもたちとの交流を深め、仲間意識を育む機会を提供している。また、時間があるときには片道1km程の公園へ散歩に出かけたり、市のバスで都内の水族館への遠足に出かけ、生き物に親しみながら楽しく過ごすなど、地域資源を利用して、多様な体験の場を提供している。</p> <p>PTAと連携し体験の幅を広げたり、職場体験中学生との異年齢交流を行っている</p> <p>小学校内の学童クラブとして根付いており、PTAと良好な連携を保っている。PTA読み聞かせボランティアが学童クラブ内でも年に2回の読み聞かせを実施し、子どもたちはPTA主催のスプリング水遊びの会や花植え活動にも参加して楽しんでいる。また、近隣の中学生の職場体験を受け入れており、職員の提案により、中学生には読み聞かせやゲーム大会の審判を担当してもらい、子どもたちを楽しませるための2つの企画を準備してもらった。子どもたちは中学生と対戦する遊びなどを通じて、異年齢との交流を深めている。</p> <p>児童館の行事に積極的に参加し、子どもたちが児童館に主体的に関わる道筋を作っている</p> <p>近隣の児童館で年2回行われる運営会議に出席し、地域の健全育成団体、民生委員、小中学校や保育園、PTA、放課後子供教室の代表者と情報交換を行っている。年に1回実施される児童館まつりにも職員が事前の実行委員会から参加し、当日の店舗運営を行うが、子どもたちが店の準備に携わるため、自然と地域イベントにも主体的に参加する意識が芽生え、地域の大人や子どもと交流できている。児童館に遊びに行く機会も設けており、児童館を身近に感じ、おたよりを見て個人として児童館行事に参加できるような意識を育てている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
タイトル①	中期経営計画の確実な目標達成に向けて取り組んでいる	
内容①	市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。外部コンサルタントの助言を受け、各地域に応じた単年度計画の作成と具体策の明確化を図り、確実な実行に向けて取り組んでいる。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、次年度に向けた課題抽出を実施している。このプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、確実な達成を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	学童クラブの生活が豊かになるよう行事の提供を多様に開催している	
内容②	1、2年生だけの学童クラブでその大半を1年生が占めている。日々の遊びを大切にしながらも、初めて学童クラブの生活が有意義で楽しく過ごせるよう様々な行事が企画されている。集団で体を思いきり動かす遊びや、仲間と考えて謎を解く遊び、個々が楽しむ工作などが行われている。その他にも近隣の公園への散歩、バス遠足、児童館の行事への参加など多岐にわたり、子どもたちが一歩ずつ学童の集団生活に慣れていくよう支援している。職場体験で中学生が来所してくれた時はみんなで遊ぶ計画が立てられ子どもたちは思い切り遊ぶ体験となった。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-1	子どものプライバシー保護を徹底している
タイトル③	プライバシーや個人の尊重に関する子どもたちの声をルールに実践を行っている	
内容③	子どもたちが集団生活の中で友だちから嫌なことをされた、トラブルが起きたと職員に訴えてきた際には、原因を子どもたち自身で考える機会を設けている。その考えを基に、プライバシーに配慮し、個人を尊重する視点でのルールを1年生でもわかりやすい内容にまとめ、ホワイトボードに記載して随時更新している。具体的なルールには、内緒話をしない、友だちの名前をからかわない、友だちの持ち物や人の体に触らない、順番取りをしないなどが含まれている。これらは集団活動をスムーズに進める一助となり、いじめ予防にもつながる効果が期待できる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	法人内児童部門の組織力向上に向けて、地域性を踏まえた高い水準のサービス提供に向けて取り組んでいる
	内容	年2回行われる学童クラブ全体会を開催し、事業の目的の確認を通じて共通認識の醸成を図るとともに、職員間のコミュニケーションや支援力の強化、標準化に向けた取り組みを進めている。この取り組みを通じて、法人の運営する各学童クラブのサービス提供は、標準以上の水準を保ちながらも、施設長等を中心とした職員全体の努力により、地域性を大切にされた運営が行われている。地域のニーズは今後も増加が予測されており、さらなるサービスの拡充と、地域ネットワークの一つの拠点として機能することを目指している。
2	タイトル	職員や友達との交流や、日々の遊びが大切にされ、子どもたちが主体的に過ごすための環境整備の工夫が凝らされている
	内容	職員は学童クラブに遊びが欠かせないことを認識し、様々な遊具や玩具、ボードゲームなどを揃え児童は自由に遊んでいる。特に覚えてほしい遊びのルールや遊び方は「遊びの教室」を開き説明する場を設けている。ドッチビーやけん玉、こま、編み物等の遊び方やルールは職員が説明するものもあるが、2年生も教える役を担い、1年生に教えることで交流が生まれている。みんなが統一したルールを覚えることで遊びがスムーズに展開され遊ぶ楽しさも感じ取れる。このような楽しい遊びの体験を通して明日も学童クラブにきたいという思いにつながっている。
3	タイトル	子どもが不調を訴えやすいように、健康観察シートを用いて、意思表示支援をふまえた健康管理をしている
	内容	職員は、子どもがけがや体調不良を訴えた場合や異常を感じた際、別のスペースで休ませ、話を聞くことで対応している。聞き取りでは、体温、症状の発生時期、痛みの場所や原因などを詳細に確認し、体の図を入れて痛みの部位も記入可能な健康観察シートに記入している。この事業所では、独自に子どもの気持ちを表すための段階的な顔の表情図を取り入れ、指で示すことで気持ちを表現できるようにしている。これは、在籍している言葉での感情表現が難しい病気を持つ子どもや、自分の状況を言葉でうまく説明できない1年生などにも有益である。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	将来的な職員の専門性やマネジメント力の向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい
	内容	法人が運営する学童クラブは市内に7か所あり、地域性と子どもの状況に応じた柔軟な運営が行われている。各学童クラブは主に法人本部の児童部門と施設長を中心に方針が決定され、配置される職員による業務手順等は標準化されている。一方で、業務の負担状況には各施設間で差異が見られるため、今後は通常業務における役割や担当に明確な基準を設けることで、より働きやすい職場となることが期待される。また、職員のマネジメント力にも注視し、その育成方法についても検討されることに期待したい。
2	タイトル	安定した質の高い育成支援の継続に向けて、職員の休憩場所の確保に向けて、法人内の連携を通じた取り組みが行われることに期待したい
	内容	事業所は市内で3番目に建てられた歴史ある小学校に併設された学童クラブである。学童クラブの場所は時代背景や児童数の変化に応じて校内で変更を重ねてきた経緯があり、その影響で室内の収納場所が少ないなどの課題が生じている。また、夏季休暇等の1日育成の際には、職員の休憩場所の確保が難しく、天候を考慮しながら確保する必要がある。今後は、例えば法人からの臨時応援体制を敷くなどの方法を検討し、育成支援の質を維持しつつ、職員の働き方を改善することで、より安全で円滑な学童クラブの運営がされることに期待したい。
3	タイトル	事業所全体での打ち合わせや会議等を行う検討をし、多様な働き方に配慮した情報共有の仕組みづくりに期待したい
	内容	運営には、常勤職員、契約職員、契約パート職員が関わっており、経験年数や年齢は様々である。常勤職員が中心となり運営されているが、育成内容の情報交換や検討は主に朝礼で行われており、パート職員は朝礼簿から情報を得ているのが現状である。全職員で話し合う会議は実施されておらず、主にパート職員が対応している配慮の必要な児童の対応に関する情報共有も、日誌記録と口頭でのやり取りが中心である。定期的に全職員が参加する場を設定することで、研修報告なども含めた育成に関する情報共有が深まり、より効果的な支援が期待される。